

【 2024 年度 聖隷こども園・保育園 施設関係者評価 】

目的：浜松磐田地区の聖隷福祉事業団のこども園・保育園及び関連法人のこども園が、お互いに客観的な視点で施設評価を行うことで、保育の資質向上を目指す。

評価日・評価者

評価日 2024年 11月 6日

評価者 園 名 市野与進こども園

役 職 園長 氏 名 鈴木 勝子

評価者 園 名 聖隷こども園こうのとり豊田

役 職 園長 氏 名 高木 智美

【保育・教育理念】

聖隷の保育・教育理念が、日常の保育・教育に反映されているか。

- ・愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
- ・一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
- ・自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
- ・在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

コメント

聖隷の保育、教育理念の根幹であるキリスト教保育については、讃美歌や食前のお祈りを通し、身近な存在として神さまとのつながりを大切にしたい保育が成されていた。乳児クラスでは子どもたちが安定した情緒の下で園生活を送るために、ゆるやかな育児担当制を取り入れている。一人一人の成長や発達を丁寧に見極めた上で家庭的であたたかな眼差しで保育する職員の様子があった。幼児クラスでは日常の子どもたちのあそびが充実するような環境が考えられ、一人ひとりの個性を大切にしていた。また、地域の自治会やシニアクラブ、高齢者施設の方々といった幅広い年齢の方々と交流する機会を持ち、子どもたちのお互いを大事に思う気持ちや優しさを育てている。主幹・副主任が核となりクラス運営や園の行事などを任されており、若手指導や非正規職員との連携を図り保育の質向上のために動いている。

【人権尊重】

常に子どもの立場に立って、子どもの成長に最善となるような取り組み（関り・配慮）がなされているか。

コメント

好きな遊び、好きな場所、好きな人と過ごすこと、子どもたちのやりたい、やってみたいという気持ちに寄り添えるよう子どもたちの様子で職員どうしが連携を取りながら保育する様子があった。保育を展開するにあたり、ドキュメンテーションやフォトラーニングを使った勉強会を行うことで子どもの気持ちの読み取りを深めている。

【情報保護】

個人情報の保護は適切であるか。

コメント

園長管理のもと、個人情報に関する重要書類、緊急連絡表、記録などで職員が使用するパソコンやタブレットなどの端末類など、個人が特定できるような情報や記録などは鍵のかかる場所にて保管管理していた。また、園内研修の計画に組み入れ個人情報、法令順守の研修を職員に実施している。

【苦情対応】

意見や苦情に対して、適切な対応ができているか。

コメント

入園時、保護者等の懇談会実施の際には必要に応じて説明を行っている。また、園だよりなどでも保護者へ向けて情報発信を行っている。その他、意見箱の設置。苦情などの受付、解決の窓口の周知については園内にて掲示案内をしている。
保護者よりいただいたご意見に関しては、具体的に職員会議などの場において問題解決、改善についての話し合いの場を設けている。必要に応じて対応している。

【保健・衛生】

園児の感染症等の情報提供、日常の健康観察や感染症の拡大防止等の取り組みがなされているか。

コメント

ICT システムを活用し、家庭からの子どもの健康に関する情報提供と合わせ、子どもの健康観察を行っていた。園内は清潔に保たれ、子どもが使用する玩具や物に関して、定期的な消毒がされている。また、職員は感染症マニュアルを把握することで自身が感染源にならないことや、保育室に消毒液を設置するなどして感染予防に努めていた。保健部会の開催、複数ある聖隷のこども園保育園に在籍する看護師より、細やかな自園に関する感染状況等の情報共有を経て対策強化を行っている。

【安全】

救急・防犯・避難訓練等を通して、職員・園児の安全対応能力の向上を図るための取り組みがなされているか。

コメント

年間計画に、いつ、何をなすべきか子どもの安全確保に必要な取り組みを盛り込み実践的な訓練や研修の実施をしている。リスクの高い場面(午睡、食事、水遊び、園外活動)、緊急的な対応が必要な場面(災害、不審者侵入)など、資料を基に留意点を改めて確認し、マニュアルの見直しなどを行っている。事故発生防止に向けた環境づくりには職員間のコミュニケーション、情報共有、事故予防のための実践的な研修を行うなど組織的に取り組んでいる。

【運営】

施設・設備の環境や管理等、運営は適切になされているか。

コメント

必要に応じた、点検、修理を行っている。
認定こども園の認定基準により国から示された職員配置を満たしている。職員のシフト管理、日々の職員配置に関しては主幹保育教諭が状況に応じ欠員が出ないよう丁寧に適正配置を組み、職員の休みを保証しつつ最善に行われている。
設備に関しては、点検が行われ子どもが安全に使用できるよう配慮されている。

【環境美化】

園内外の清掃、物の整理整頓等、清潔で整然とした環境になっているか。また、季節感等が感じられる工夫がなされているか。

コメント

保育室には、子どもたちが採集した自然物や製作物が飾られ季節を感じることが出来た。また園内には花や鉢植えが飾られ、亀が飼われており水槽などがあった。水替えや花摘みなどの世話がなされていることがよく分かった。手入れが行き届いている清潔な印象を持った。

【保育室】

室内の環境が子どもの発達に合わせて工夫され、玩具等適切に配置されているか。

コメント

年齢発達に合わせ、子どもの導線をよく考えた環境設定がなされていた。棚の配置を工夫し、コーナー遊びの充実と子どもたちの遊びスペースの保障など環境設定を意識し、計画実践しているクラスの様子が分かった。

【保育内容】

全体的な計画に基づき、「歳児別保育目標」を意識した保育が展開されているか。

0 歳児

- ・ 神さまから預かったいのちとして大切にされる
- ・ 大人の愛情に包まれ、安心して過ごす
- ・ 意思がしっかり受け止められ、安心して自分らしさを出す

1 歳児

- ・ 保育者の祈りや讃美することを通して、神さまに会う
- ・ 歩行と共に行動範囲をひろげ、興味・関心をひろげる
- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ 全身を使ってあそび、言葉や身振りで自分の思いを表す

2 歳児

- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ さまざまなことに興味・関心を持ち、保育者や友だちの中であそびを楽しむ。また、生活面の自立ができるようになる。

3 歳児

- ・ 保育者や友だちと一緒に讃美歌を歌うことやお祈りをすることを喜ぶ
- ・ あそびを通してイメージを広げ、社会や自然を理解し、友だちとあそぶことの楽しさやル

ールの大切さを味わう

4 歳児

- ・保育者や友だちと礼拝を守りながら日々を歩む
- ・あそびを通して基本的な自然や物事の特徴を知り、友だちとのかかわりを通して葛藤を乗り越え、集団生活を豊かにする

5 歳児

- ・一人ひとりが神さまから違った良いものをいただいていることを認め合って過ごす
- ・共同的な活動を通して、子どもたちが自分の役割を知り、互いに認め合いながら、主体的に行事やクラスの運営を行う

コメント

キリスト教保育を軸に乳児期から幼児期にかけ子どもたちの成長発達を育んでいる。保育者の思い、歳児で大切にしたい事柄については、クラス間で主体的に話し合いが行われている。保育の運営に行き詰まった際には、園全体で考え合いながら保育を展開している。

【全体を通して】

コメント

広々としたホール、保育室の環境を見直し、工夫しながら子どもたちの自主性を尊重した保育が展開されている。園児数が多く、大きな集団ではあるが子どもたちの健やかな成長を支えていく上で、くつろぎの空間、食事、睡眠、遊び、会話など、クラスだけでなく園全体で振り返る機会を持ち、細やかに個別での配慮が必要な児に対しての保育もより丁寧に関わっていけると良い。

様々な経験層の職員がいる中、それぞれが子どもを真ん中に置いた保育を心がけ、実際に保育する姿からは、子どもにとって今必要なことはどんなことかを意識しながら保育する様子が見られた。課題とを感じる保育の困りごとを園全体で共有する機会を持つことで、より質の高い保育を子どもたちに提供することができるのではないかと感じた。